

授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

授業のタイトル (科目名) 教育心理学	授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 鈴木崇弘	当該科目に関する実務経験 臨床心理士
授業の回数 8 回	時間数 (単位数) 16 時間 (2 単位)	幼稚園教諭専攻科 前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい及び概要] ・教育心理学とは、子どもを教育していく上で必要となる知識を身につけ、子どもの成長を促すためのより良い教育とは何かを心理学的な視点から探求する学問である。そのため発達、学習、パーソナリティ、測定・評価の 4 つの領域についての基礎知識が必要となってくる。本科目では、基礎的知識習得はもちろんのこと、事例にのっとり、それらの知識をいかに教育の実践に役立てていくのか検討し、教育現場において生じる問題及びその背景、教育現場における心理社会的課題及び必要な支援を学ぶ。併せて、現実の教育現場で起きている問題の応用を考えていく。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1・教育心理学とは (教育心理学の内容や意義、用いられる研究法などを理解する) 2・教育心理学のあゆみ (教育心理学の歴史を概観し、代表的な研究者の研究内容) 3・子どもの発達 (遺伝と環境、レディネスの概念を理解する) 4・知能 (知能の概念の有効性、代表的な知能の理論、発達、規定因などの理解) 5・性格 (パーソナリティ) (性格の概念と個人差を学ぶ。代表的な性格の理論や性格の形成、性格の診断法等) 6・学習のメカニズム (バブロフの古典的条件付け・スキナーのオペラント条件づけ・洞察による学習等、学習のメカニズムを理解する) 7・学ぶ意欲と授業の課程 (動機づけの概念や原因帰属などの理論、様々な授業方法を学ぶ) 8・学習の評価 (学習の評価の目的、基準などの理解。学校現場での実際の教育評価の方法や注意点) 9・社会性 (社会性 (向社会性と道徳性) の理解。「愛着関係」「親子関係」「仲間関係」が社会性の発達に及ぼす影響を理解) 10・集団としての子ども (社会心理学的観点から、教育活動を理解する。 11・子どもの不適応行動 (いじめ問題・不登校や非行などの理解) 12・現代社会をいきる子どもの発達環境と影響の考察			
[使用テキスト] ・「たのしく学べる最新教育心理学 教職に関わるすべての人に」(図書文化社) [参考文献] ・「教育心理学をきわめる 10 のチカラ」(福村出版)			
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が 80% 以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考査点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			